

## 神と政府

2010年2月21日 アシェル・イントレーター

神の御国はまず私たちの心の中の種として始まり、それが国際社会の平和と調和へと広がります（**マタイ13章、イザヤ2章**）。その間は、いかなる宗教宗派は政府に対して権威を持つべきではありません。イスラム教国やローマ・カトリックが支配した中世、そして在のイスラエルに対してあるラビ的ユダヤ教の一派といった宗教団体が政治に対して権威を持っていますが、それは結果として腐敗、抑圧、そして真の信者に対する迫害です。

その一方で、私たちの祈りや品行方正な価値観、そして良き働きは社会に影響を及ぼします。神の霊的権威は政府を越えるものであり、またすべての人間が組織する集団すなわち家族、教会そしてビジネスをも越えるものなのです（**ローマ13章、エペソ5章、1ペテロ2章**）。私たちは最高位の地位に至るまで政府に関わるべきです。ヨセフはエジプトの宰相でしたし、ダニエルはイラク（訳注：バビロン）の宰相、そしてモルデカイはイラン（訳注：ペルシャ）の宰相でした。

ダニエルは政府に神が関わることと権威について何度も主張しています。

**ダニエル 4:17:** この宣言は見張りの者たちの布告によるもの、この決定は聖なる者たちの命令によるものだ。それは、いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者に与え、また人間の中の最もへりくだった者をその上に立てることを、生ける者が知るためである。

**ダニエル 4:25:** (前略) あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになります。

**ダニエル 4:32:** (前略) ついに、あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになる。

**ダニエル 5:21:** (前略) ついに、いと高き神が人間の国を支配し、みこころにかなう者をその上にお立てになることを知るようになりました。

神と政府との間のつながりを見誤ってしまうことについて二つあります。一つは神無しの政府を求めることで、もう一つは政府無しに神を求めることです。最初の間違いは未信者の政治家に典型的に見られるものです。二つ目の間違いは神の支配と力に関して弱い信仰しか持たない信者に典型的に見られるものです。

政府に関わる者で罪を犯している場合、救われて悔い改めに導かれることもあります。信仰と誠実の中を歩む人が権威ある地位につくことがあります。これら両方によって神の御国が政府を変えることができるのです。

イエシュア(イエス)はメシア、王、預言者、祭司すべてを兼任しています。主が再臨される時、霊的権威と人間の政府は一つになるのです(エペソ 1:10)。イエシュアは十字架にかけられたのは私たちの罪を赦して下さるためであり、復活されたのは死からいのちを与えて下さるためであり、天に上られたのは権威を受けるためでした(エペソ 1:20、詩篇 110:1)。

イエシュアが天に上られた時「年を経た方(ダニエル 7:9)」の御前におもむかれ、主は支配する権威が与えられました。

**ダニエル 7:13-14:**私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。

聖書のドラマのほとんどは誰がこの地上を支配するのかという戦いです。サタンは一時的に支配しています(罪の影響力を通して)。しかしすぐイエシュアは王であり判事として戻られます。そうなる時、イエシュアは誠実であった人々にその権威を委任します(ルカ 19:17)。ダニエルも同じ考えを述べています。

**ダニエル 7:18:**しかし、いと高き方の聖徒たちが、国を受け継ぎ、永遠に、その国を保って世々限りなく続く。

イエシュアは救いだけを私たちにもたらして下さったのではありません。この世界の政府に対する権威を取り戻すために来られるのです。これは神の預言的な戦略に関する最後の啓示と思われるます。

**黙示録 10:7:**第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラツパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられたとおりに成就する。

**黙示録 11:15:**第七の御使いがラツパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」

最後の奥義は7つ目のラツパと共にやってきます。その奥義とは何でしょう。イエシュアの御国にこの世界の政府が転換するのです。預言による啓示を信じる私たちにとって、これこそ最終的な「ラツパ」による召命の他なりません。この預言を宣言することによって、これは成就するのです。

## 最新の祈りのお願い

**エステル**の断食: 2月26日金曜日、聖書にあるエステルの断食の時、20のメシアニック・コングリーゲーションが集まってエルサレムで聖なる集会を行います。私たちは主を礼拝し、罪を悔い改め、神の御言葉を宣言し、イスラエルと諸国の救いのために執り成しの祈りを行い、そしてテロの拡大、反ユダヤ主義、反キリストの霊に対抗して祈ります。重要な転換期と信じる私たちと一緒に祈り下さい。

**テレビ放映**: イスラエルの教育テレビで録画されたアシエルのインタビューがやっこの月曜日(2月22日)の夜放映されます。どうか神の恵みがこの放映にありますよう、アシエルの信仰とメシアニック運動の拡大についての証が真実に、肯定的な光の元受け止められますよう執り成して下さい。

**ラビ・アロン(Alon)**: イスラエルで人気の高いラビ・モルデカイ・アロンが、最低2件の同性愛的接触を生徒たちに試みたということで、正統派のラビたちの審議によって懲戒となりました。この報道についてイスラエルの報道機関の中で広がり、全国の宗教的共同体の中で感情的な混乱を引き起こしています。この問題についての反省が神のご計画の一部であり、真の信仰へと彼らを導くものとなるようお祈り下さい。

**ドバイ**: 今週、ハマスのテロリストの第一人者であるマフマド・アル・マブフーフがドバイのホテルの一室で殺されましたが、イスラエルのモサドの職員によるものと思われます。殺害は手際よく行われ、無実な市民は一切巻き込まれず、すべての職員は無事に逃亡しました。ドバイの警官の専門家は速やかにこの作戦を実行したと思われる11名の職員の写真を公開しました。(ドバイの「ハイテク」警察は世界でも最新鋭の監視ネットワークを持ち、それには空港だけでも3000(!)ものカメラが設置されているということも含まれます。)

作戦は外交スキャンダルを引き起こしました。それは、イスラエル人職員が偽造のヨーロッパのパスポートを用いたためです。(イスラエルの秘密職員が自分の本物のパスポートを使うと思いますか?)ここでの問題は、偽造パスポートを使ったことではなく、無実の市民を殺害する責任に対し、テロリスト犯罪者らを裁判にかけることにあります。